

# ふる里散歩

当会では天覧山周辺の自然に親しんでいただくために毎月「ふる里散歩」を開催しています。楽しい企画がめじろ押しです。どうぞ、ふるってご参加ください。

10/9 「谷津田の水辺づくりエコツアー」 昼食付き

市民のトラスト地「ほとけどじょうの里」で、ホタルやトンボなど呼び戻す水辺づくりを楽しみましょう！

汗を流した後は、石窯を使って昼食を作ります。そして午後は里山の自然を観察しましょう。

集 合/飯能市郷土館前

要申込み/先着15名

申込先/てんたの会 042-974-1691 (浅野)

持ち物/飲み物、作業できる服装と着替え、ゴム長靴(貸し出しもあり)

参加費/2000円(小学生以下500円)

★雨天中止

11/23 天覧山谷津再生プロジェクト「里山復活祭」 昼食付き

天覧山下の「ほとるの里」で谷津田の保全作業を行います。さて、今年の稲の出来はどうでしょう??

集 合/市民会館北側 中央公園トイレ付近 午前9時

要申込み/先着30名/042-973-2125

はんのう市民環境会議事務局

(市役所環境緑水課)

持ち物/軍手、タオル、飲み物

参加費/無料

※主催:はんのう市民環境会議 協力:てんたの会

12/11 「里山のリースづくりエコツアー」

毎年大好評企画の里山のリース作り!どんぐりや松ぼっくり、ツタ、草の実など…野山の恵みを使って、世界にたった一つの自分リースづくりに挑戦!!

午前中は山歩き、昼食後にリースづくりを行います。

集 合/飯能市郷土館ロビー 午前9時半

要申込み/先着15名

申込先/てんたの会 042-974-1691 (浅野)

持ち物/飲み物、お弁当、山道を歩ける服装

参加費/1000円(小学生以下500円)

★雨天実施

2012年 1/1 「初日に祈る山歩き」の巻

幸多き一年を願って、新しい年の始まりを天覧山の自然の中で迎えてみませんか!

集 合/能仁寺山門前 午前6時15分

申し込みは不要です

参加費/無料 ★雨天中止

【※を除く各回共通 共催/はんのう景観トラスト、(財)埼玉県生態系保護協会飯能名栗支部】

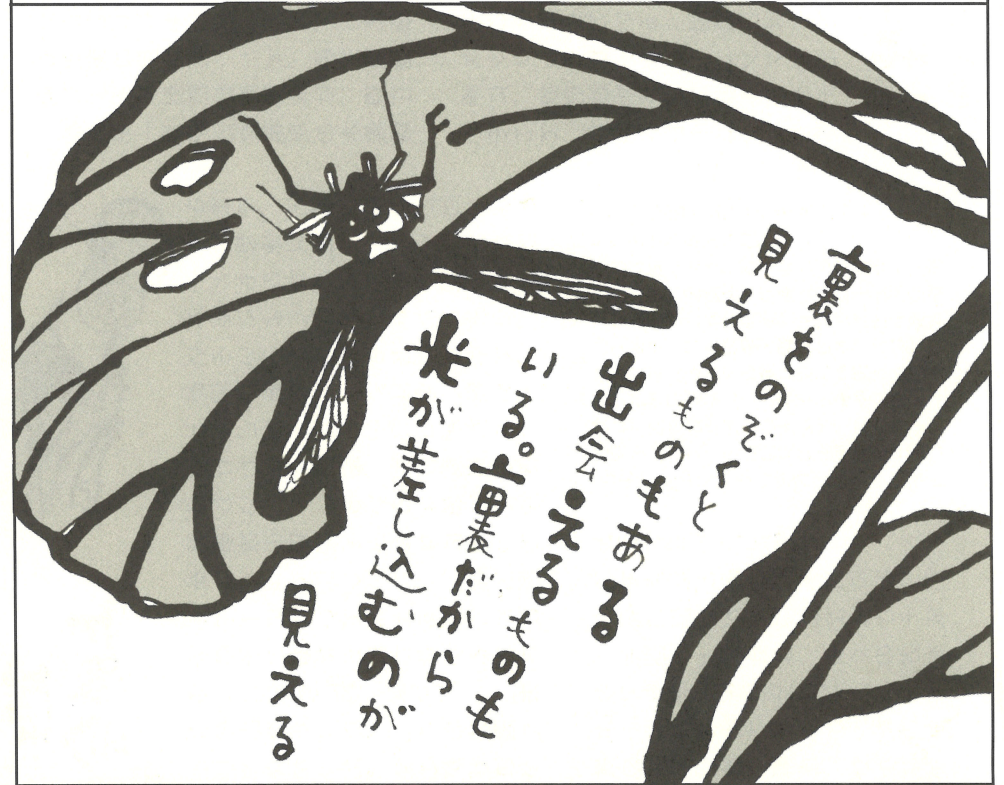


NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会 会報

No. 61

2011.10.1

# やませみ



# やませみ

61

発行日/2011年10月1日

編集・発行/NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会 事務局/TEL042-974-1691(浅野正敏)

埼玉県飯能市柳町18-17

●機関誌「やませみ」は「銀河堂」「ロビンウッドフェロー」「丹三郎」にあります。

●「やませみ」へのご意見をお寄せください。投稿もお待ちしています。

URL=http://www.tenranzan.com/  
E-mail=tenta@tenranzan.com

## 会員募集中!

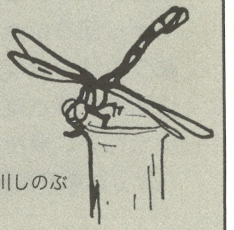
1995年、巨大住宅団地開発の計画がきっかけで発足した「NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会」は、この地の自然をいつまでもという思いで、様々な活動を続けています。どうぞあなたも会員になって活動を支援してください。

\*年会費 ●正会員……普通会員 2,000円  
特別会員10,000円  
●賛助会員……1口10,000円

\*会費・カンパ送り先  
郵便振替口座「NPO法人 天覧山・多峯主山の自然を守る会」00580-9-16342

もくじ

- 天覧山の珍しい昆虫たちと環境との関係/大石 章
- 環境省モニタリングサイト1000(モニ1000)里地調査
- 特集 放射能汚染と私たち——様々な取り組み紹介  
◎子どもたちの笑顔のために/黒住浩次  
◎3.11以降の私の生活/丸山 隆  
◎てんた周辺の放射線量を測りました/早瀬成憲  
◎被害はあとから?/菊地眞幸  
◎映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会を終えて/長谷川しのぶ
- ふる里散歩





# 特集 放射能汚染と私たち

記事は中ページを  
ご覧ください。

今回「やませみ61号」では、福島第1原子力発電所事故により3.11以来、目に見えぬ放射能汚染が広がっていることに大なる危機を覚え、特集記事を組みました。人間の勝手な都合で環境にダメージをあたえてきたものは、ダイオキシンの、カドミウム、有機水銀、各種農薬、等々数有れど、そうした猛毒の域を遙かに越えて人類の手に負える範疇にない放射能物質がまき散らされています。今なお放出し続ける放射能に対し、遠方へ逃避できないでいる私たちは一生、いや何世代にわたってつき合っていかなければならなくなってしまいました。

てんたの会では、天覧山・多峯主山周辺の貴重な自然環境を次代に引き継ごうと、これまで

幾多の危機を乗り越え守ってきました。そこは、子どもたちにとって身近な自然とふれあうことのできる貴重な場所であるはずなのですが…。これまで私は（多くの方もそうであるように）、自然と共に生きる考え方を良しとしてきました。3.11以降は、残念でなりません「放射能汚染」が冠につくこととなり、衣食住すべてに考え方を変えなくてはいけなくなってしまいました。てんたの会が守り育てていこうとしている自然環境もかりです。早々にその答えはありませんが、まずはどのくらいの「放射能汚染」なのかを知らることから始めようと思います。それからどのように次の世代に引き継いでいくべきかを考えましょう。

てんたの会 代表 浅野正敏

3月以降、主に首都圏や飯能周辺で放射能や原発に関する調査や情報発信など、様々な取り組みをされている方々のいくつかを下記に紹介させていただきます。

◆内部被爆を考える市民研究会 <http://www.radiationexposuresociety.com/>  
さいたま市の公立中学の理科教員でもある川根先生が主催する、内部被ばくについて、自主的に学習し、周りの方々に広めていくための会。

◆放射能防御プロジェクト <http://www.radiationdefense.jp/>  
2011年8月8日「福島第一原発の事故の真実を知りたい」という思いから、世界各国から合わせて約5000人のメンバーがネットでつながった市民グループです。関東150ヶ所土壌汚染調査結果マップを発表しています。

◆放射能から子どもを守ろう SAVE CHILD <http://savechild.net/>  
食品の汚染や土壌汚染など放射能から子供たちをまもらたいと、福島原発事故や放射能汚染情報や地震などの情報のまとめサイトです。

◆脱原発秩父人 <http://sky.geocities.jp/chichibu2009/Giin/2011titibujin.html>  
秩父エリア関連の方を広く募り活動と情報交換が活発に出来るようにと設定された、facebookを使っている意見交換の場。

◆地域循環型の暮らしを進める日高市民の会(日高くるくるねっと)  
地域にある豊かな自然資源(太陽・水・田畑・森など)を上手に活用し循環させながら、人と人が手を携へ、次の世代に楽しく豊かな暮らしを残していくことを目指していらっしゃいます。毎月の自然エネルギー学習会の開催や菜の花プロジェクトを実践中。《問い合わせ》日高くるくるねっと E-mail [kurukuru\\_hidaka@yahoo.co.jp](mailto:kurukuru_hidaka@yahoo.co.jp)

◆NPO法人有害化学物質削減ネットワーク  
(食品・水・土壌)の放射能測定を依頼できます。  
《問い合わせ》TEL 03-5627-7520 FAX 03-5627-7540

◆「飯能市およびその周辺における放射能、自然エネルギーに関する情報集」  
飯能市、及びその周辺における、放射能、自然エネルギーの情報、勉強会、講演会、催し物などについてのページです。<http://ameblo.jp/hannoumirai/>



# 天覧山の珍しい昆虫たちと環境との関係

自然観察指導員 大石 章

天覧山周辺には多くの昆虫がいる。チョウで見ると、日本の約240種のうち、3分の1近い77種のチョウが確認されていて、高山や南方にしかない種も多いことも考えると、かなり多様性が高いといえる。また、この中に県レッドデータの準絶滅危惧種、絶滅危惧種が15種も含まれ、貴重な自然がある証拠を示している。

ミスジチョウは準絶滅危惧種のチョウで、数が少なく、まだ一度しか見たことがない。カエデ類を食樹とするので、植えられたイロハモミジやウリハダカエデの多いこの地でわずかに見られる。現在、杉・檜の間伐とモミジなどの植樹が行われているので、今後増えるかもしれないと期待している。



ミスジチョウ

ジャノメチョウも準絶滅危惧種で、八ヶ岳などの高原地帯では多数見られるが、丘陵地では極めてまれである。ススキ原で発生するため、周辺の開発中断地のススキ原で生き残ってきたのではないかと想像するが、カヤネズミのためのススキ原保全・拡大も検討されているので、合わせて増えることを期待している。



ジャノメチョウ

スミナガシは、水に墨を落として広がる模様のような羽をしているためこのような乙な名前をもらったチョウで、今年初めて確認できた。食樹が少し高い山で見ることの多いアブキで、幼木以外はまだその木の存在を確認できていない。アオバセリという同じ木の葉を食べるチョウをやはりまれに見かけるので、木が少ないのだろう。広葉樹を増やす際は、アブキも加えていただきたい。



スミナガシ

アオマダラタマムシはよく知られているタマムシの仲間、一回り小さいがメタリックな緑色に輝く美しい甲虫で、やはり今年初めて確認した。タマムシも見かけないという方が多いと思うが、7~8月エノキの大木を見上げると遙か上空をたくさん飛び交っているのを

見ることができる。しかしアオマダラタマムシは埼玉県が分布の北限という南方系の昆虫で、数が少ない準絶滅危惧種だ。サクラなどの古木から発生するため、広葉樹の森の保全が求められる。アオマダラタマムシ



このほか、今年はミヤマクワガタやノコギリクワガタといった少年時代に雑木林でたくさん見かけた昆虫を再発見できたほか、ナガサキアゲハ、アカボシゴマダラといった南方系・外来種のチョウの増加も見られる状況がある。一方、コナラ林を壊滅させるおそれのあるカシノナガキクイムシが近県まで進入してきている。今後、モニタリング調査などを通じて動向を把握していきたい。



ミヤマクワガタ

## モニタリングサイト1000

天覧山・多峯主山地域は「環境省モニタリングサイト1000 里地調査地域」に指定され、当会が下記項目について調査を行っています。100年間の自然の移り変わりを見つめる作業で、御協力いただける方を歓迎します。日程等詳細については当会ホームページをご覧ください。

- ◎ 植物相調査…通年毎月11日、8時30分能仁寺山門集合
- ◎ チョウ類調査…4~11月第1土曜日、10時能仁寺山門集合(晴天のみ)
- ◎ カヤネズミ調査…6月、11月(年2回)
- ◎ カエル類調査…2~3月毎週土曜日、10時~12時頃
- ◎ ホタル類調査…6月下旬~7月(夜間)

●調査全般の問合せ先  
大石 ezh01701@nifty.com  
黒住 robensou.bird@orange.zero.jp

※環境省モニタリングサイト1000(モニ1000)  
環境省が全国に約1000ヶ所のモニタリングサイトを設置し、基礎的な環境情報の収集を100年間継続して行い、日本の自然環境の質的、量的な変化を早期に把握するための調査です。







# 被害は

## あとから？

菊地眞幸(会員)

昨年4月から、午前中に仕事が終わる日の帰りに水俣フォーラム(注1)で手伝うことにした。今年9月にはカナタ水俣病講演会、11月には白河で水俣展があるので、これから忙しくなりそうだ。また報道写真誌DAYS JAPAN(注2)の若いスタッフが懸命に働いている姿を見て、事務所やイベントを手伝うことにした。合わせてボランティアは週に3回程度となった。

が、同じ間違いをさせてはいいと思う。ドイツではチエルンブイリのと、牛肉の基準値はキロ当たり8ベクレルだったと思うが、日本では500ベクレル。こんなことを許してはいけないのではないだろうか。水俣病の有機水銀の検出方法についても、国は昔のままのやり方を採用している。日本人が開発した簡易で正確だと、国際的にも認められている方法は未だに採用されていない。したがって、水俣の魚の安全性についても心配だ。同じことが、すでにフクシマで始まってしまっているのではないかと。データを隠し、正確な測定、調査をせずに、基準を決める…政治的な判断なのだろうか。

私が通う飯能の赤沢には子どもたちも遊びに来るので、原発事故後、放射線測定器を購入し計測することにした。ホットスポットになつてないか心配だったからだ。私が購入したものは正確な値は測れないが、変化は分かる。測定法や考え方はDAYSのおかげで理解が進んだ。「水俣の経験がフクシマへ」という考え方を様々な人が述べてい

(注1) 特定非営利活動法人水俣フォーラム…公書の原因といわれる水俣病事件の周知及び伝承に関する事業を行い、「近代」や「人間」について、共に考える機会を提供したいという主旨に沿って様々な活動をしている。  
(注2) DAYS JAPANは写真家の広河隆一さんを編集長に「人々の意思が戦争を止める日が必ず来る」「一枚の写真が国家を動かすこともある」を掲げて発信を続ける世界を視るフォトジャーナリズム月刊誌



# 子どもたちの笑顔のために

黒住浩次(会員)

切り外で遊べる夏休みをプレゼントした。川遊び、釣り、木登り体験、キャンドル作り、絵手紙講座、バーベキュー、キャンプファイヤー、温泉、キャンプ場のバンガローに泊まり、築260年の古民家に雑魚寝した。運営する側もワクワクするようなプログラムに参加者全員が最高の笑顔で福島に帰っていった。一緒に参加された保護者の方も、「久しぶりに子どもたちが思い切り外で遊ぶ姿を見ました。放射能のことを忘れさせてあげられて本当によかった。」と喜んでくれた。

太陽を浴びて、青空の下でのびのび遊ぶ。そんな当たり前の子どもの権利を奪ってしまった、今回の原子力発電所の事故。「どうかこの子どもたちに放射線障害が表れませんように」と願うとともに、一人でも多くの方が骨髄バンクにドナー登録してくれることを望んでいる。

骨髄移植に関するお問い合わせ、資料請求は骨髄移植推進財団 でんわ0120-445-445 骨髄バンクホームページ <http://www.jmdp.or.jp/>

骨髄バンクのドナー登録をして5年。その間に4回適合通知が届き、うち1回は実際に骨髄提供を行うに至っている。骨髄移植は、白血病や再生不良性貧血などの、血液性難病の有効な治療法である。しかし白血球型(HLA型)の一致は家族間でも難しく、多くの方のドナー登録が必要だ。一人のドナーが一生のうちに骨髄提供ができるのは2回まで、またドナー登録の年齢制限も18歳から54歳までと規定されている。私の場合残された骨髄提供のチャンスは1回、ドナー登録可能期間も残りわずかだ。

今年3月11日の震災による福島原発事故以降、国内のみならず、世界中が放射性物質の影響を受け、生活に不安をかかえている。とりわけ原発周辺の方々の場合は深刻で、食料の調達、屋外での活動に大きな制約を強いられている。放射線被曝の影響は今後確実に、さまざまな形で現れてくるだろう。チェルノブイリ事故の後の例を見ても、甲状腺癌や白血病の発症が増えることが懸念される。

私の職場のある、奥多摩町の青年たちが、役場に働きかけ、町の仲間を募り、福島県月館町の小



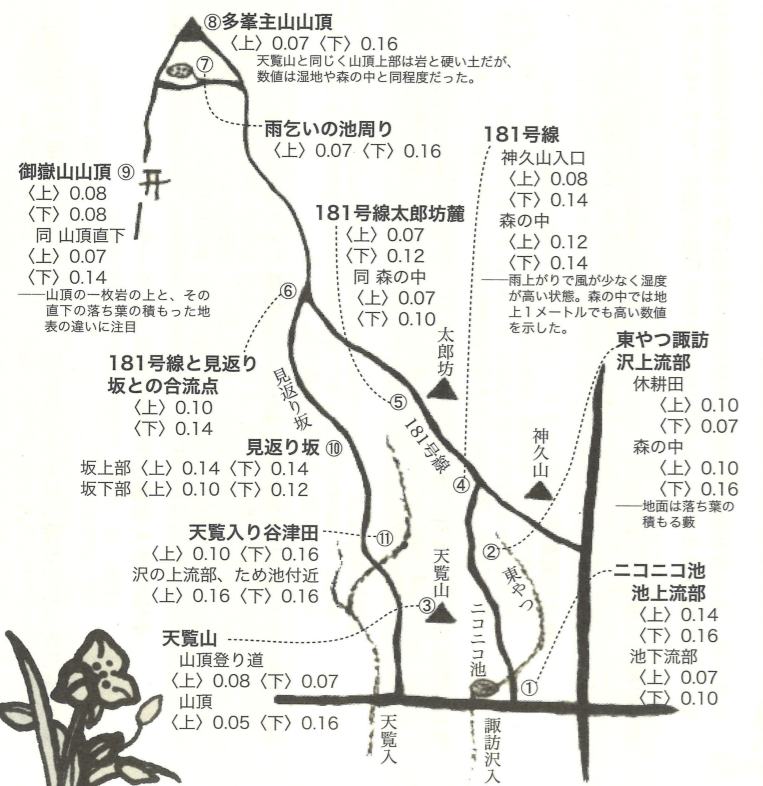
# 特集 放射能汚染と私たち

今回は、高校で数学を教えている菊地さん、福島出身の若いお母さんである長谷川さんなど、5名の会員に原発事故後の個々の取り組みなどを書いていただきました。

## てんた周辺の放射線量を測りました。

早瀬成憲(会員)

3月11日の福島原発事故後、天多周辺の放射線量はどのようになっているのだろうか…。2011年8月25日、「飯能放射線測定会」の青木さんと落ち合い、数日続いた雨上がりの午後2時より放射線測定をスタートする。測定方法は地上1メートルを〈上〉地表面を〈下〉として測定。測定器は中国製のJB4020型。数値は毎時マイクロシーベルト(μSv/h)。



福島第一原子力発電所の水素爆発による放射能拡散事故は、現在も収束の目処もたたず、事故現場から200キロ以上離れている飯能でも影響は免れていない。この日を境に、私たちの生活は微妙に変化し、いかに汚染された環境を取り込まずに生活していくかが大きな関心事のひとつになってきている。しかし、飯能に住み続けながら、放射能の被曝を完全に食い止めることはかなり難しいのだが、出来る限りその被害を最小限にしたい。そして、天久山多峰主山を含む奥武蔵の自然の中でトレイルランニングや自転車走することを生かすのの一つにしている私のような者にとつて、こうした環境下で運動してよいものと常に不安がつきまとう。

そこで、毎朝トレーニングする際に、放射性物質の拡散予測をチェックしてからトレーニングに出ることになっている。雨の日も出るんのこと、風向きが飯能方面に向いているときは自重する。花粉症対策として毎日摂取していたヨーグルトは、豆乳で作るようにして、味噌も大豆と麹と塩で自家製のものを作っておく。これらの乳酸菌や酵母は免疫力を高めるのに役立つらしいので、放射能対策としても有益なのではないかと思っている。こうした心がけがどれほど有効かどうかはわからないが、防護に完璧を求めれば、飯能での私の生活は成り立たない。しばらくは、正確な情報を収集することに努め、自分で納得できる生活行動基準というべきものを作って自己防衛するしかない。

## 映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会を終えて

長谷川しのぶ(会員)



東日本大震災から一ヶ月半が過ぎた4月半ば、小さい子どもを持つ母親たち4名の「この映画、飯能で観たいよね」という言葉からはじまった自主上映会への道のり。それはとても簡単なことじゃなかった。全てがゼロからの出発だった。「この映画を多くの人たちに観てほしい」、「未

にも満員御礼の結果に終わった。しかし、当日券を申し込みにいらしたお客様には泣く泣くお断りをしなければいけないという場面もあった。どちらの回でも、エンドロールが終わってもお客様の手が鳴り響き、なかなかホールから出てこなかったのが今でも脳裏に焼きついている。今回の上映会は、多くの方々からの協力があったからこそ成功できたと思う。本当にありがとうございました。

## 3.11以降の私の生活

丸山 隆(会員)

